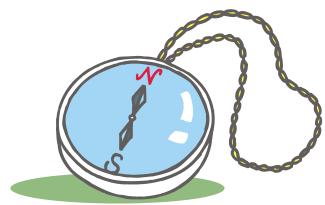


羅針盤



第 5 号

令和7年5月12日(月)

◆『いじめ(いのち)について考える日』

城陽中学校では、学校の教育目標の一つとして、「仲間を大切にし、相手の気持ちを考えられる人間に」を掲げて教育活動を展開しています。生徒の皆さんも十分に理解していることは思いますが、「いじめは生命をもおびやかす行為であり、人間として絶対に許されない行為」です。仲間はずれや、冷やかし、あるいは、からかい、誹謗中傷、・・・、自分がされて嫌なことは、誰がされても嫌なことです。「いじめ」は、絶対に許されるべきことではありません。生徒の皆さんの中にも、安全で安心して学校生活を過ごす権利を持っています。常に相手の立場に立って物事を考え、友だちが抱えもっている課題を自分の課題として捉えることや、時と場合によっては、学級や学年、学校の課題として考えることが何よりも大切なことです。課題の解決に向けて、共に考え、協力し、支え合えることが大事なことです。全ての人が持つ人権を守ることや、誰もが生きていく権利を有することを、当たり前のことはあるけれど、今一度しっかりと振り返りながら、考える時間を持つてもらいたいと考えています。また、併せて、「生命の尊さ」についても深く考える機会を持つてもらえばと思います。日頃の何気ない活動の中からでも、時には思い悩むようなことは誰しもがあり得ることです。一人で悩みを重たく抱え込むのではなく、いつも近くにいてくれる人を信頼し、思い悩んでいることを話すこと、必ず解決する方法を見つけると思います。生徒の皆さんの中には、誰もがとても大切な存在であることに気が付いて、自分の存在価値を肯定的に捉えて、学校生活を過ごしてほしいと考えています。

保護者の皆さん、「いじめ問題」に限ることなく、ご家庭で何かお困りのことがありましたら、些細なことでも構いませんので、学校の方へご相談ください。学校にできることも、確かに限界はあるとは思いますが、保護者・地域の皆さんとしっかりと手を携えて、子どもたちにとってより良い教育活動や一人ひとりの子どもたちにとって少しでも多くの支援ができる活動を展開して参りたいと考えています。 (校長 坂井 伸治)

◆ 命をいただき、命をつなぐ

農家の人たちが丹精を込めて育てた稻を、秋の収穫の時期になると刈り取るのは、自分たちが食べるためだけではありません。多くの人たちに食べてもらうため、言うなれば「多くの人たちの命をつないでいく」ために、刈り取って食してもらうことがあります。あるいは、酪農家の人たちが牛や豚、鶏を育てて食用としていることも、自分たちが食べるためだけではありません。これも多くの人たちに食べてもらうため、「命をつないでいく」ために、大事に育てて食用としているのです。そういう農家の人たちが育てくれた農作物、酪農家の人たちが育てて食用とする牛や豚、鶏といったものが、人間の命を明日へとつなぐために、私たちは多くの命を有難くいただいていることを忘れてはならないはずです。しかし残念なことに、他の命をもらっている人間が互いに命を奪い合うようなことをしているのではないかでしょうか。自分の命、他人の命、動物の命、植物の命、・・・。全ての命を大切にしていく思いこそが、私たち人間に求められることであり、何よりも大事なことであるはずだと思います。

